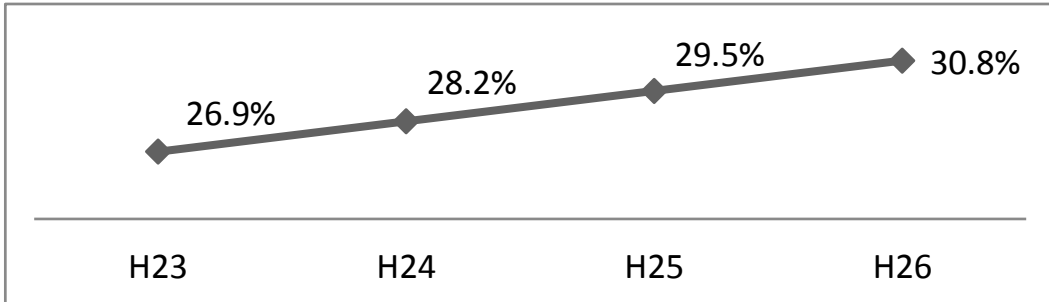


超高齢社会・加賀市に どう対応していくべきか！

加賀市の現状と将来推計 (コーホート要因法による)

・加賀市の高齢化率の推移

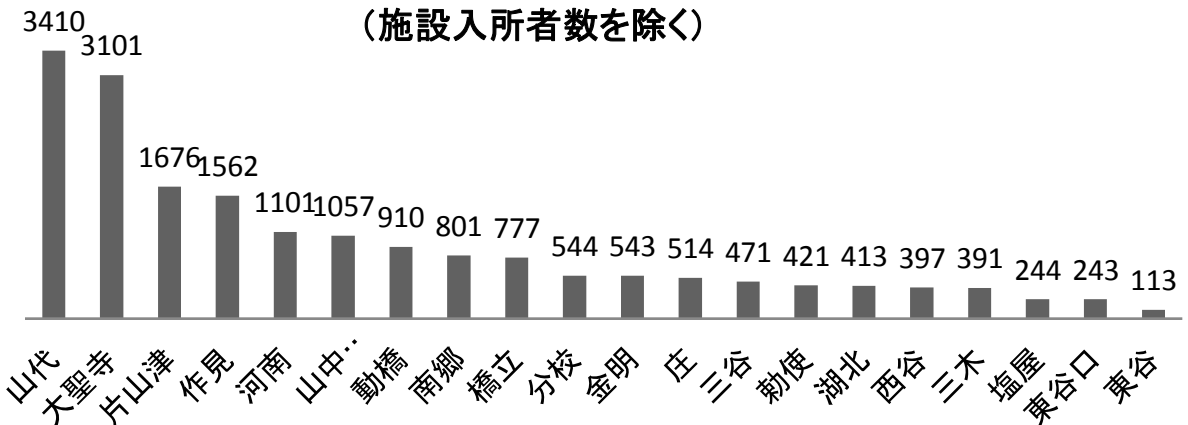


・加賀市の高齢数の推移

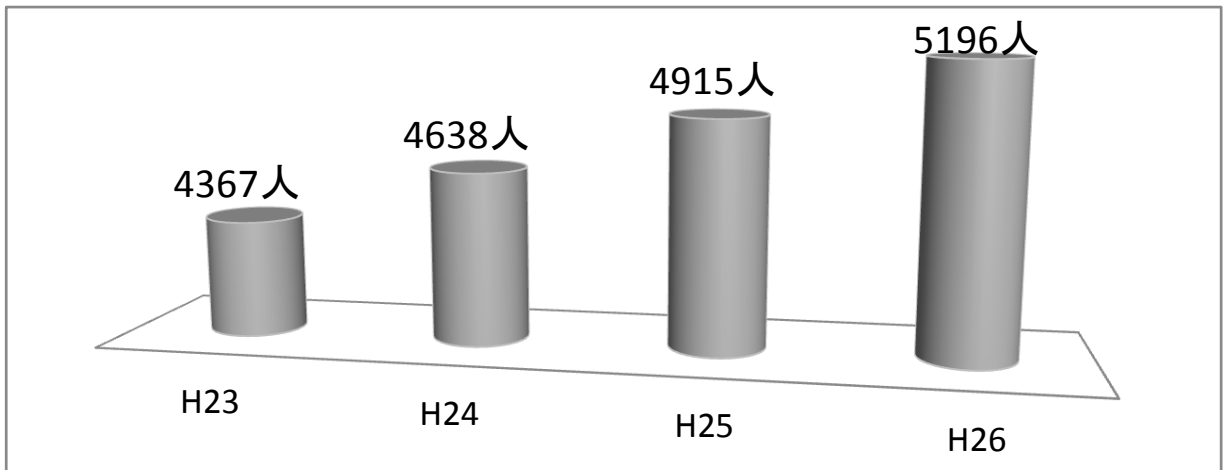
19684人	20355人	21001人	21614人
H23	H24	H25	H26

住みなれた地域で
いつまでも暮らしていけるまちづくりのために！

市内20地区の高齢者数の現状と課題解決に向けて (施設入所者数を除く)



課題 一人暮らし高齢者の増加（推計値）



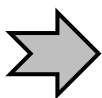
・特に、山代・片山津・山中の各温泉地区では、一人暮らし高齢者の割合が異常に高くなっています。又、アパートに一人で住んでいる方も多く、行政だけの力では、不安解消ができていません。隣近所の見守りが必要となってきています。

高齢者人口に占める独居高齢者の割合が高い地域		人数
片山津	40.8%	684人
山代	32.1%	1094人
山中温泉	31.1%	329人

* 山中地区は現在4地区に分かれています

（残り3地区の独居割合は・・・河南18.6%、西谷24.2%、東谷27.4%）

* 施設入所者は除いています。



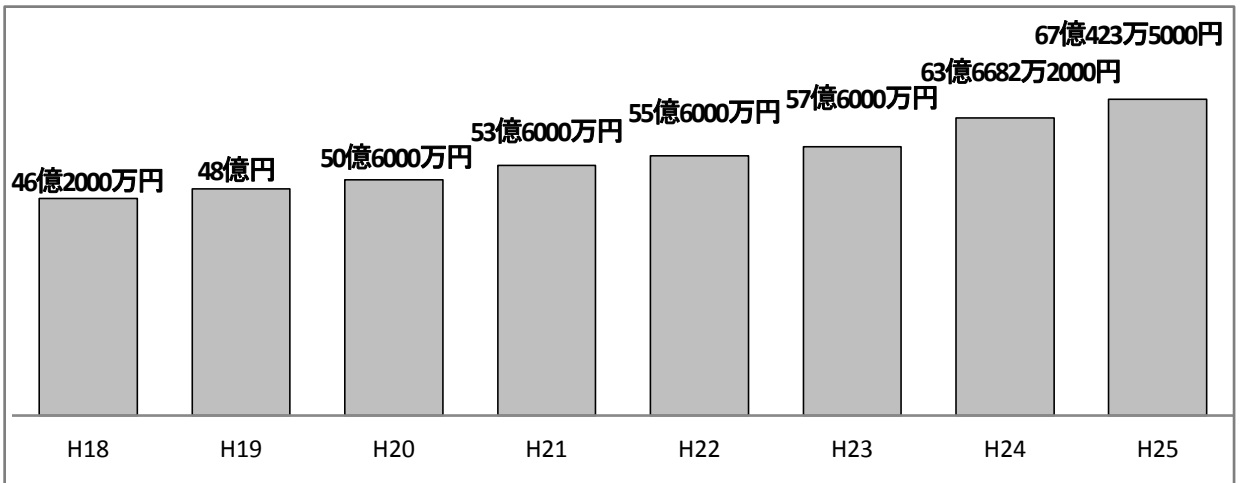
・加賀市では、近所に身内がない高齢者が増えています。
 ・全国的にも、高齢者のみ世帯の社会的孤立・消費者被害・閉じこもり・孤立死が表面化してきており、加賀市も深刻度を増してきています。

この解決には、どうしても

【行政の福祉政策＋身近な隣近所・まちづくり等の目と関わり】
 が、必要です。

➔ もう一度「加賀市民は、みな知己にならなければなりません

課題 膨れ上がる加賀市の介護保険事業にかかる総費用

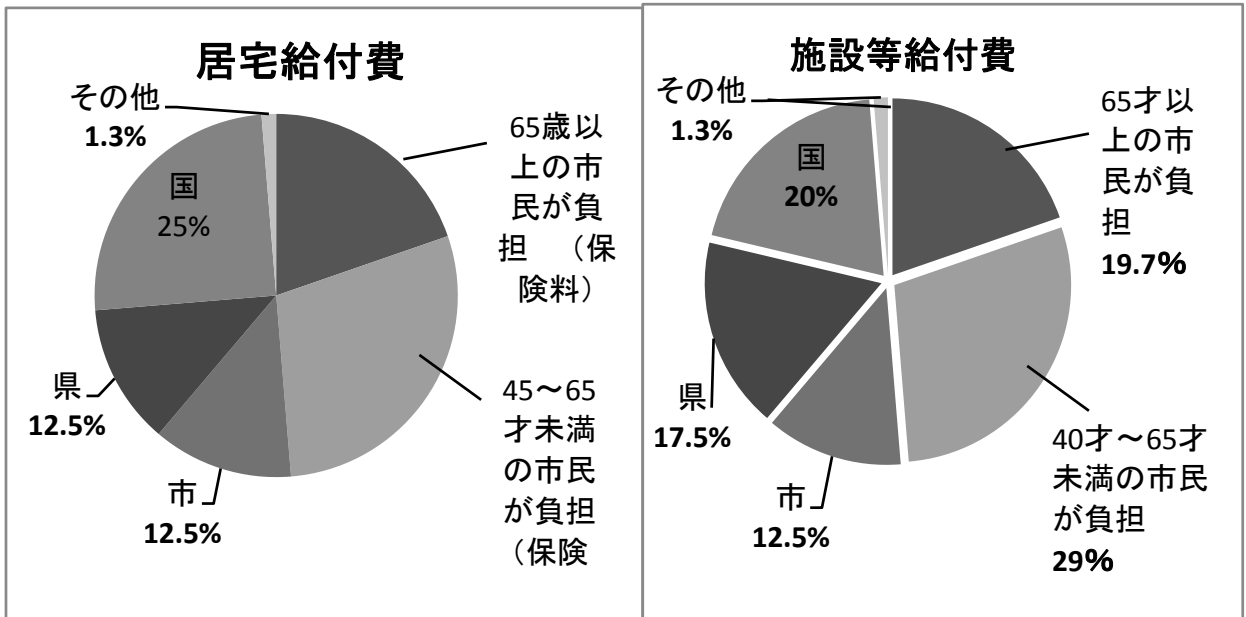


加賀市の介護保険料は値上げが続き、市民への重い負担増となっています。

〔 市民は、自分達が納めた保険料に目を向け、
その使い方に関心を持つことが大切！ 〕

では、実際に現在

「加賀市の介護保険事業にかかったお金は、誰がどのように払っているのか」



- ・上記のグラフのように、約半分を市民が保険料として払っています。
- ・保険料は所得に応じて納めます。又、住んでいる市によって保険料は異なりますので、それぞれの市の支出が多ければそれだけ、市民にはねかえってくることになります。

課題

住みなれた市内、地域でいつまでも暮らしていくことは可能か
又、施設入居を望む高齢者はその希望がかなえられるのか？

加賀市の施設サービス基盤の現状

要介護認定者の状況 (H23年10月)	要介護5 360人	要介護4 485人	要介護3 464人	要介護2 577人	要介護1 576人
------------------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

施設定員数
(H24年度当初)

介護老人 福祉施設	介護老人 保健施設	ケア ハウス	グルー プホーム
440人	569人	60人	177人

← (合計1246人分) →

左記の表をみてもわかるように加賀市では⇒現在、要介護3以上の方は、ほとんど入居可能な施設数が整備されています。

介護施設に関しては・・・
都会から比べれば、とても恵まれた市となっています！

現状をふまえて・・・

＜加賀市の介護政策の方向性を、どうしていくのか？＞

・自宅で介護をうけるか、施設に入所して介護を受けるかについては、価値観や状況に応じて、高齢者自身が判断して、選ぶのが望ましいことです。

では、加賀市民は、どちらを望んでいる方が多いのでしょうか？

昨年、「超高齢社会における市民意識調査」を行ったところ、加賀市民の約半分の方が自宅での介護を希望していました。

又、介護福祉施設に入所したいと回答した人の中には、「本当は、住みなれた自宅でいつまでも暮らしたいが、核家族化が進行する中、家族に負担をかけたくないから、施設に入る」と、答えている人もおり、『住みなれた自宅での生活をあきらめている方』がいることがわかりました。

そこで、【超高齢社会の加賀市にとって、大切なことは！】

行政支援(公助)地域支援(共助)に、力を入れ地域の高齢者がいつまでも「住みなれた自宅で暮らしていきたい」と願うなら、『それを支える環境づくり』を、整えていく必要があります。

① 小規模多機能型居宅介護・複合型サービス事業所の整備

小規模多機能型居宅介護は、利用者の様態や「通い」「泊まり」、「自宅への訪問」といった希望に応じたサービスを、柔軟に組み合わせて、24時間365日対応サービスのことです。

	H24	H25(目標)
事業所数	10	12
定員数	235	278

② 認知症対応型通所介護の整備

認知症高齢者が身近な地域で通える場所を確保することを目標とし、既存の地域密着型施設で行う共用型の認知症対応型通所介護のみ、4カ所整備していきます。

③ 定期巡回、臨時対応型訪問介護看護の整備

日中、夜間を通じて、1日複数回の定期訪問と、随時の対応を介護、看護が一体的に、又は、密接に連携しながらサービスを提供していきます。

一人暮らしの高齢者や中重度者の、要介護者の在宅生活を可能にする上で重要な役割を担っていきます。

(1カ所整備を行う)

④ 介護保険施設の個室ユニット化の推進

施設に入所した場合でも、小規模なグループ単位で介護を提供し、施設での生活を限りなく在宅生活に近いものにしていきます。

しかし、利用者には、施設利用料の負担増加、又、介護サービス事業者にとっては、職員の配置・変更など、多くの課題があります。

⑤ 介護予防拠点や地域交流施設の推進

これまでも、実施してきましたが、介護サービス事業者・施設が、要介護高齢者のみ集まる場所ではなく、地域のこどもとの世代間交流や住民などとの交流を図っていく場所となるよう推進していきます。

今後の方向性

○ 市の財政が厳しい中、増え続ける市内高齢者の支援を、行政だけで、全て実施していくことは困難です。

行政は今後も：介護施設の整備、居宅介護の支援を強化していき
・・・が、それと同時
それぞれの大切な役割が、必要になってきます！

- 1 地域 → 見守り・支え合いの強化
- 2 本人や家族 → 介護予防、健康維持に努める。
- 3 家族 → 多世代同居、近親間による助け合い。
- 4 企業や行政 → 働きたい高齢者の対して、雇用環境の整備
- 5 元気な高齢者によるとりくみ → シルバーボランティアの拡大

・・・など、市民、行政、企業が、超高齢社会の中で、
各々ができることに、積極的にとりくむべきです。・・・

特に、一人暮らし高齢者の外出サポート、公共交通の確立、
健康づくり、介護予防の指導を進め「健康寿命」を維持して、豊
かな加賀市を目指していきましょう！



室谷 ひろゆき 議会報告

市役所 加賀市大聖寺南町二41 72-1111
住所 加賀市山代温泉14の67 77-7839

2012年
9月号

(討議資料)